

No part of this product may be reproduced in any form or by any electronic or mechanical means, including information storage and retrieval systems, without written permission from the IB.

Additionally, the license tied with this product prohibits commercial use of any selected files or extracts from this product. Use by third parties, including but not limited to publishers, private teachers, tutoring or study services, preparatory schools, vendors operating curriculum mapping services or teacher resource digital platforms and app developers, is not permitted and is subject to the IB's prior written consent via a license. More information on how to request a license can be obtained from <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

Aucune partie de ce produit ne peut être reproduite sous quelque forme ni par quelque moyen que ce soit, électronique ou mécanique, y compris des systèmes de stockage et de récupération d'informations, sans l'autorisation écrite de l'IB.

De plus, la licence associée à ce produit interdit toute utilisation commerciale de tout fichier ou extrait sélectionné dans ce produit. L'utilisation par des tiers, y compris, sans toutefois s'y limiter, des éditeurs, des professeurs particuliers, des services de tutorat ou d'aide aux études, des établissements de préparation à l'enseignement supérieur, des fournisseurs de services de planification des programmes d'études, des gestionnaires de plateformes pédagogiques en ligne, et des développeurs d'applications, n'est pas autorisée et est soumise au consentement écrit préalable de l'IB par l'intermédiaire d'une licence. Pour plus d'informations sur la procédure à suivre pour demander une licence, rendez-vous à l'adresse suivante : <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

No se podrá reproducir ninguna parte de este producto de ninguna forma ni por ningún medio electrónico o mecánico, incluidos los sistemas de almacenamiento y recuperación de información, sin que medie la autorización escrita del IB.

Además, la licencia vinculada a este producto prohíbe el uso con fines comerciales de todo archivo o fragmento seleccionado de este producto. El uso por parte de terceros —lo que incluye, a título enunciativo, editoriales, profesores particulares, servicios de apoyo académico o ayuda para el estudio, colegios preparatorios, desarrolladores de aplicaciones y entidades que presten servicios de planificación curricular u ofrezcan recursos para docentes mediante plataformas digitales— no está permitido y estará sujeto al otorgamiento previo de una licencia escrita por parte del IB. En este enlace encontrará más información sobre cómo solicitar una licencia: <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

**Japanese A: literature – Higher level – Paper 1**  
**Japonais A : littérature – Niveau supérieur – Épreuve 1**  
**Japonés A: Literatura – Nivel Superior – Prueba 1**

Monday 2 November 2020 (afternoon)

Lundi 2 novembre 2020 (après-midi)

Lunes 2 de noviembre de 2020 (tarde)

2 h

---

**Instructions to candidates**

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a literary commentary on one passage only.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

**Instructions destinées aux candidats**

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire littéraire sur un seul des passages.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

**Instrucciones para los alumnos**

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario literario sobre un solo pasaje.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

次の文章と詩のうちどちらか一つを選んで文学論評を書きなさい。

## 1.

神経痛<sup>1</sup>やロイマチス<sup>2</sup>の痛みは、あんまり揉んではいけないのだそうだが、痛みがさほどでない時には、揉ませると、そのままおさまってしまうことが多いので、私はよく妻や長女に揉ませる。しかし、痛みをこうじさせてしまうと、もういけない。触ればなお痛むからはたの者は、文字通り手のつけようが無い。

5 神経痛の方は無事で、肩の凝りだけだというとき、用の多い家人をつかまえて揉ませるのは、今の私に出来るゼイタクの一つだ。この頃では十六の長女が、背丈は母親と似たようになり、足袋も同じ文数<sup>もんすう</sup><sup>3</sup>をはき、力も出て来たので、多くこの方に揉ませる。疎開以来田舎の荒仕事で粗雑になった妻の指先よりも、長女のそれの方がしなやかだからよく効くようだ。それに長女は、左下に寝た私の右肩を揉みながら、私の身体を机代わり

10 りに本を開いて復習なんかするから、まるで時間の損というのでもない。  
ときにはまたおしゃべりをする。学校のこと、先生のこと、友人のこと——たいてい平凡な話で、うんうんときいてやっていれはすむ。が、時々何か質問をする。先日も、何の連絡もないのに、宇宙は有限か、無限か、といきなりきかれて、私はうとうとしていたのを一寸こづかれた感じだった。

15 「さあ、そいつは判らないんだろう」

「学者でも？」

「うん、定説は無いんじゃないのかな。——それは、あんたより、お父さんの方が知りたいぐらいだよ」云い云い、私は近頃読んだある論文を思い出していた。可視宇宙に於ける渦状星雲の数は、推定約一億で、それが平均二百万光年の距離を置いて散らばっている。その星雲の、今見られる最遠のもの、宇宙の辺境とも云うべき所にあるものは、地球からの距離約二億五千万光年、そして各星雲の直径は二万光年——そんなことが書いてあったようだ。そしてわれわれの太陽系は、約一億と云われる渦状星雲のうちのある一つの、ささやかな一構成分子たるに過ぎない。「宇宙の大」というようなことで、ある感傷に陥った経験が自分にもある、と思った。中学上級生の頃だったと思う。今、

25 十六の長女が同じ段階に入っていると感ずると、何かいたわってやりたい思いに駆られるのだった。

「一光年というのを知っているかい？」ときく。

「はい、光が一年間に走る距離であります」と、わざと教室の答弁風に云う。

「よろしい。では、それは何キロですか」こちらも先生口調になる。

30 「さア」

「ちよつと揉むのをやめて、紙と鉛筆、計算をたのむ」

ええと、光の速度は、一秒間に……などと云いながら、長女は掛算を重ねて十二桁か十四桁の数字を出し、うわ、零が紙からへみ出しちゃったと云った。そいつを二億五千万倍してくれ、という、そんな天文学的数字、困る、という。

35 「だって、これ、天文学だぜ」

「あ、そうか。——何だか、ぼおツとして、悲しくなつちやう」と長女は鉛筆を放した。

二人は暫く黙っていたが、やがて私が云い出す。

「でもね、数字の大きさに驚くことはないと思うよ、数字なんて、人間の発明品だもの、単位を決め方でどうにでもなる。仮りに一億光年ぐらいを単位にする、超光年とか云つてね、そうすれば、可視宇宙の半径は二超光年半か三超光年、二・五か三、何だそれだけかということになる。——反対に原始的な単位を使うとすると、零の数は、紙からへみ出すどころか、あんたが一生かかったって書き切れない」

「うん」と静かに答える。

45 「単位の置きどころということになるだろう。有限なら、いくら零の数が多くたって、人間の頭の中に入るよ。ところが、無限となると……」

神、という言葉がそこへ浮かんだので、ふと私は口をつぐんだ。長女は、機械的に私の右肩を揉んでいる。問題が自分に移された感じで、何かぶつぶつと私は頭の中でつぶやきつづけるのだった。

50 「——われわれの宇宙席次ともいうべきものは、いったいどこにあるのか。時間と空間の、われわれはいったいどこにひっかかっているのだ。そいつをわれわれは自分自身で知ることが出来るのか出来ないのか。知ったら、われわれはわれわれでなくなるのか。」

尾崎 一雄

<sup>1</sup> 神経痛 … 末梢神経が刺激されることに起因する痛みのこと。

<sup>2</sup> ロイマチス … リウマチ。関節・骨・筋肉のこわばり・腫れ・痛みなどの症状を呈する病気のこと。

<sup>3</sup> 文数<sup>もんすう</sup> … 日本独特の足袋や靴などの履物サイズの単位。

2.

おやすみ

知らない人が知らない人を愛するたび、  
私の中からも愛が減っていく気がしていた。  
世界中が私を愛さない限り、ぜんいんを許さない。  
ぜんいんを嫌いになる。

- 5 さみしさはそんなかたちをしているのに、  
私は何よりも美しい風景にそのきもちを喩えている。

体温で沸騰して、  
目からは落ちないまま終わった私の涙が、太陽の残り香みたいに  
全身に回っていく。曇り空が瞳の奥に広がるあいだ、  
10 私の嗅覚と味覚が心臓のこと、肺のことを確かめようと  
必死になっていた。  
胃の底で雨が降って、沈んでいく食べ物だったもの、生き物だったものが、  
こんなつもりで生まれたんじゃないとつぶやく。  
ねえ。「甘い」と「眠い」は感覚として、よく似てるね。

- 15 好きという言葉で、人間の理性は眠っていくよ。

(肌があるのはきみがこれ以上私に近づかないためだ。)  
瞳も、胃も心臓も本当は私ではなくて、それよりもずっと奥、  
私の背後に見えているあの白い滝だけが本当の私。  
どうか、きみが消えても、すてきな世界でありますように。  
20 愛するたび、きみがいなくてもよかつたんだと口走るよ。  
ひとは、誰かの救いになる必要なんてない。

最果タリ

**Disclaimer:**

**Texts used in IB language assessments are taken from authentic, third-party sources. The views expressed within them belong to their individual authors and do not necessarily reflect the views of the IB.**

**References:**

1. 尾崎一雄, 1982. 「虫のいろいろ」. In: 宮本輝, ed. 2004. 『魂がふるえるとき』. Tokyo: 文芸春秋. pp.182–185.  
Source adapted to a modern script.
2. 最果タヒ, 2018. 『天国と、とてつもない暇』. Tokyo: 小学館. pp.54–55.